

# ヒンディー語専攻

🌐 ヒンディー語専攻は、ヒンディー語を習得し、新しい可能性を秘めたインドの社会と文化の現実を、熱く学ぶ意欲を持つ皆さんを歓迎します。



インドのアーグラ市にあるタージ・マハル

インドの人口はついに12億人を突破し、2045年には中国を抜いて世界一になると言われています。これほどのすごいエネルギーをもったこの国について皆さんはどれだけのことを知っているでしょうか。仏陀、ガンディー、カースト制度、ヨーガ、カレー、貧困、核保有国というイメージが定着しているのではないのでしょうか。それらは、もちろん一面の事実ですが、現実のインドは、立派に民主主義が働いており、めざましい高度成長を遂げつつあり、とくにIT産業の発展はめざましいものがあります。アジアの市場を見ると、「中国の次はインドだ」といわれるのも無理はありません。伝統的にインドと日本は、仏教という精神文化を通じて交流がありましたが、これからは文化・社会・政治・経済のあらゆる分野での交流が重要となるでしょう。

私達ヒンディー語専攻では、トータルなインド文化理解の前提として、もっとも重要な公用語であるヒンディー語の習得を非常に重視しています。最初の1年間は、徹底的に語学の訓練にあてられます。これを武器として、他大学には真似のできないインド研究を目指しているのです。ヒンディー語をマスターすれば、インドの知識の無尽の宝庫が諸君の前に開かれます。ヒンディー語は語順も日本語とよく似ており、文法も簡単で整然としており、発音は少し難しいものもありますが、一語一語ははっきり発音してくれるので非常に聞き取りやすい言葉です。世界で一番多く映画が制作されるのはインドであり、その中でもヒンディー語映画は人気があり、世界中に輸出されています。日本でも近頃、インド映画を見る機会が増えてきました。字幕なしでこの言葉が理解できればどんなに楽しいことでしょう。皆さんの憧れるカッコいいスターに会ってヒンディー語で話すというチャンスに恵まれるかもしれません。

厳しい授業でもヒンディー語学習の楽しさは十分満喫してもらえると信じています。優秀な諸君、好奇心旺盛な諸君、ヒンディー語専攻に來たれ！

インドの500ルピー紙幣の裏上と左下の文字がヒンディー語。右下が英語。左のボックス内にその他の15の言語で500ルピーと書かれている。



「ナマスカール」

## नमस्कार

学生の声



2年 岸 弘都

ナマスカール！ みなさんはヒンディー語にどんな印象をもっていますか？何て書いてあるのか分からない、暗号みたいな、などと色んな印象があると思います。私ははじめは暗号にしか見えませんでした。しかし、1ヶ月もすればすぐに読めるようになりました。ですので、字が難しそうなどと心配している人は安心してください！

文字が読めるようになると、さっそくヒンディーの物語などを读んだりしていきます。物語を读んでいく中でインドの習慣などが垣間見えて、とても楽しいです。また、勉強していくうちにインドへの興味が湧き、より一層ヒンディーを学びたいという気持ちにもなります。そして、インドへ行ってみたい！という気持ちも芽生えてくるでしょう。

ヒンディー語は決して簡単なものではないので、睡眠時間を削り勉強することもあります。しかし、苦勞したぶんヒンディー語をより理解し話せるようになります！カレー屋さんのインド人の店員さんやインドからの旅行者と話すのはとても楽しいですし、道でふと見つけたヒンディーの文章を理解できたときは本当に嬉しいです！

私がヒンディー語を学ぼうと思った理由は、日本でヒンディー語を専攻できるのは大阪大学と東京外国語大学だけ、つまり日本では1年に30人程度だけが大学で専攻する言葉だということです。その特別感に魅力を感じました。そんな自分でも、インドがとても好きになりました。是非一緒に浪漫と魅惑の同居する国インドの言葉、ヒンディー語を学びませんか。

みなさんのご入学をお待ちしています！



留学体験記



4年 武本 稜介

北インドのウッタール・プラデーシュ州には、「バラナシ（旧名ベナレス）」という街があります。私は大阪大学を休学して当地のパナーラス・ヒンドゥー大学でおよそ一年間の留学をし、ヒンディー語を学びました。この街はインドの中でも宗教都市として知られており、ヒンドゥー教徒の信仰を集める聖川である「ガンジス河」沿いに位置します。想像してみてください、次から次へ追いつがってくる露店の物売り、行く先々の路地にはわがもの顔で居座る牛、人でごった返した街中にただよう異様な熱気。

「とにかく、わけが分からない！」これが、私がバラナシに対して最初に抱いた印象でした。そしてその分からないことを理解するためにも、せっかくインドに来たなら現地の生活になるだけ溶け込もう、と決めました。大学の講義もほどほどに、リュック一つで様々な地域を訪れ、たくさんの人と出会い、交流する中で、ヒンディー語、インドがいかに関心の世界や価値観を広げてくれたかということを感じました。

外国語を学ぶことは楽しいことではありますが、易しいことではありません。しかし、それは人生の可能性を広げ、新しい世界を見せてくれるものだと、私は自分の経験から感じています。インドを理解するには少なくとも20年かかると言われることがありますが、新しい世界を覗いてみたい、分からないものこそ面白いと思うみなさん。奥深いインド、ヒンディー語の世界へ飛び込んでみませんか。

